

庄川中学校 令和4年度 第2学期終業式 式辞

校長室の扉は開いています。

私が校長室にいるときには、たいてい開いています。感染症対策？それも少しはありますが、「存在を感じたい」というのが本音です。

「校長室の前は、できるだけ通りません。大切なお客様がいらっしゃるかもしれないし、大事な会議をしているかもしれないから。」皆さんがそう思っていることを、私は知っています。どうしても、校長室の前を通る時は、友達同士、「しずかに！」と声を掛け合う姿を何度も目にしました。場をわきまえた臨機応変な態度に、いつも感じします。

突然ですが、「弱み」は誰にでもあります。

私が小さいころテレビで見ていた、怪獣と闘う正義の味方は、絶対勝てそうにない強い相手にも、あきらめることなく立ち向かっていました。最後に怪獣をやっつける場面を見て、どんな強い怪獣にも弱点があるのだと感じました。

私は「怪獣」ではありませんが、私にも弱みがあります。いくつもあります。校長室の扉がその証拠です。先ほどは「存在を感じたい」などとかっこいいことを言いましたが、実は、私の存在を感じてほしいと思っています。誰かが私を見ていてくれないと、そして認めてくれないと、とても不安になります。これが私の弱みのひとつです。

さて、今日は「弱み」ではなく、「強みを知る」という話をします。みなさん、「自尊心」という言葉を知っていますか？自尊心とは、ありのままの自分を認められる気持ちなのだそうです。しかし、日本人は自尊

心があまり高くないと言われていています。自分はすごいと認めることが気恥ずかしいということもあるでしょうが、自分の強みを知らうとしないことが一つの原因ではないかと、私は思います。

例えば、庄中生の強みの一つは、「集団を高め合うことができる」ところだと思えます。よりよい学校生活を送るために、お互いに声を掛け合うことができる…、あたたかさを土台として集団で伸びようとするところです。

では、あなたは自分の強みを知っていますか？2学期に成功させたこと、結果は出なかったかもしれないけれど、挑戦したこと、そんなことの積み重ねが強みになります。そして、強みは自分に自信をくれます。その自信が自尊心につながるのではないかと思います。

失敗が怖くてチャレンジできない、すぐに人と比べてしまう、他人から認めてもらいたいと思う、そんな弱い自分にばかり目を向けるのではなく、自分の強みを知り、自分を認めてあげられるあなたであってほしいと思います。

来年は、どのような年になるでしょう？
いえ、どのような年にするのでしょうか？

オープン ザ ドア

弱さも強さも全部ひっくるめて自分です。自分の心の扉を開け、ぜひ、ありのままの自分と向き合ってください。

1月10日に、元気なみなさんと、みなさんの明るい笑顔に会えることを願って、2学期終業式の式辞といたします。